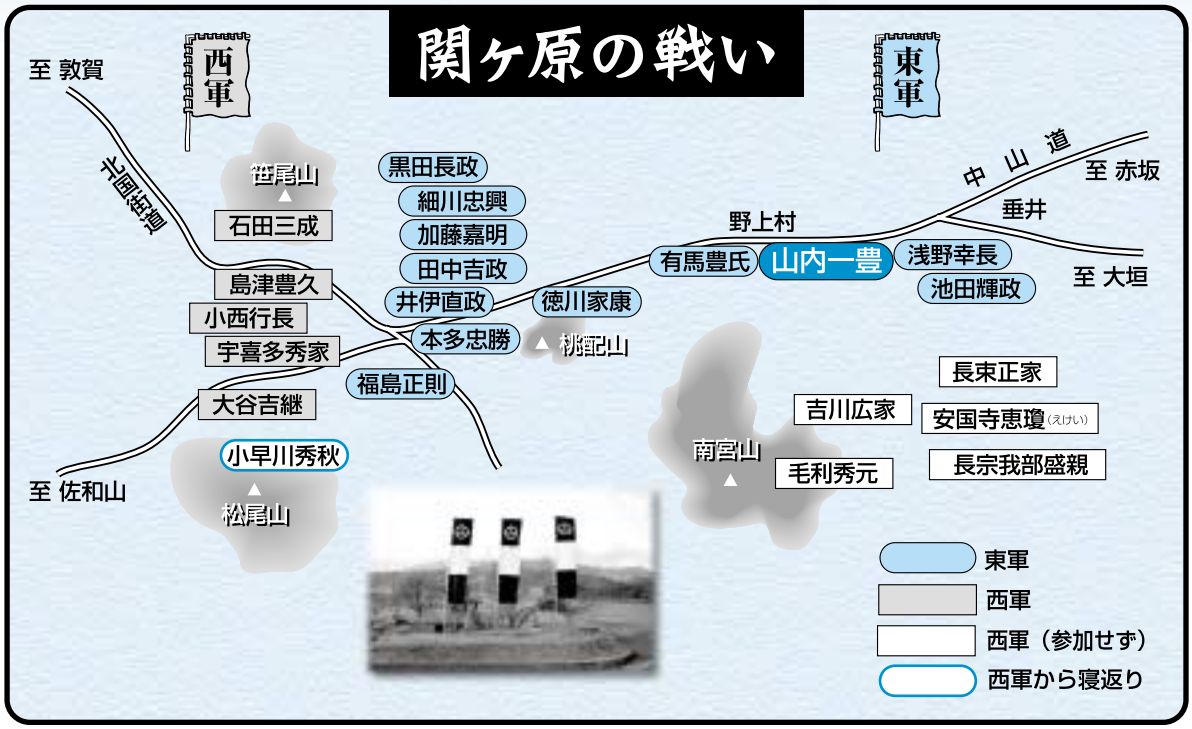
織田信長、豊臣秀吉、徳川家康に仕えた戦国武将

# 一豊と掛川

その10




## ◆千代からの手紙を、封も開けず家康に

慶長5年（1600）7月3日、一豊は掛川を出陣し、7月24日の夜中、下野（栃木県）諸川のあたりで、千代からの密書を家来の田中孫作から受け取ります。密書は編笠の紐により込んであり、それとは別に文箱を持参していました。一豊は「こより」の密書を読んで、文箱の封を開けずに家康のもとに届けさせます。文箱には、西軍への味方を促す増田長盛・長束正家の連署状と、千代からの手紙が入っていました。それまでの家康に届けられた情報は不確実なものが多かったので、千代の手紙により人質にとられていた東軍武将の妻子の様子が細かにわかり、家康を大いに喜ばせました。

## ◆岐阜城攻めで武功をあげた一豊

8月4日、一豊は、掛川城を徳川方の家来、松平康重・松平定勝・内藤信成らに明け渡し、石田三成軍討伐に出発します。この時、人質として甥の良豊（弟康豊の子）を江戸に遣わし、家康は良豊を小田原城に置きます。そして8月22日、福島正則・池田輝政らと共に、織田秀信らが守る岐阜城を攻めます。この戦いで、一豊軍は敵の首級250を取る功績をあげます。

## ◆一豊軍2,058人の軍勢で関ヶ原に出陣

9月15日、天下分け目の戦いに、一豊軍は関ヶ原の野上に布陣します。野上は南宮山の北麓にあり、南宮山に陣を張る毛利秀元・吉川広家に備えるものでした。実際には、吉川広家が家康との間に内応の密約をしていたため、戦いにはなりませんでした。第一線で多くの死傷者を出したのは、石田三成軍と衝突した黒田長政・細川忠興・加藤嘉明軍と、宇喜多秀家軍と対陣した福島正則軍で、小早川秀秋軍の寝返りにより、家康率いる東軍の大勝利に終わります。

一豊は、小山の軍議以来の功労が認められ、土佐20万石を与えられ、かわって徳川家康の御家人、松平定勝が掛川に入封します。

**笠の緒**
ここに手紙をつけて敵に見つからないようにしたと伝わっています。

（監修：掛川市郷土研究会連絡協議会）